

読むのがおぼつかしいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

もんだい
1

答えは①の「両刃鎌」です。

この道具は現場では地面をきれいにならしたり、生活の跡を探したりする際などに活躍します。

②の「箕^み」は下の写真のような入れ物で、土などを運ぶ際に使われます。

③の「移植ゴテ」はガーデニングなどの時にも使われる道具ですが、発掘現場では遺構（建物の柱穴跡など）を掘る際に使われます。

こたえ

①



発掘現場で使われる道具 左「箕」、右「移植ゴテ」

もんだい
2

答えは①の「はなびら」です。

青花紙を作る際には、アオバナのはなびらだけを使います。

アオバナはアサガオのように、朝に花が開き、昼に近づくにつれてしぼんでいきます。そのため、朝早くから手作業で花の摘み取りが行われます。

花を摘み取った後には、アオバナのしぼり汁にはなびら以外が混じらないように、黄色い花粉部分を取り除く作業が行われます。

こたえ


①



はなびらだけを摘み取った状態のアオバナ

もんだい 2	答えは②の「ゾウ」です。
こたえ ③	ゾウは時の将軍への贈り物として日本にやってきて、諸外国との貿易口であった長崎の出島から江戸までの長距離を、長い時間をかけて旅しました。 江戸時代、街道を旅したゾウについては、「象のみつき（ぞうのみつき）」（中村平五撰・画）など、様々な書籍に取り上げられました。 ゾウの他にも、ラクダなどの様々な珍しい動物が江戸時代の日本にやってきたという記録が残されています。

もんだい 4	答えは②の「平成11年（1999）」です。
こたえ ②	草津宿街道交流館は平成11年（1999）に開館し、以降、街道文化を主とした草津市の歴史や文化を伝える企画展を開催しています。 令和元年（2019）には、開館20周年記念企画展「大草津展」が開催され、草津市の「歴史」「民俗」「考古」のテーマ展が行われました。

もんだい 5	答えは②の「キンモクセイ」です。	
こたえ ②	キンモクセイは、葉は細長い円形で硬く、早秋には強い香りを放つだいたい色の小さな花をたくさん咲かせる植物です。 昭和56年（1981）1月に草津市の木として制定されました。	

もんだい 6	答えは③の「砂ずりのフジ」です。
こたえ ③	三大神社には樹齢400年と伝える「野田フジ」が伝存しており、平成15年（2003）に市指定天然記念物指定され、地元保存会によって守り伝えられています。 この三大神社のフジは、花が咲く穂の部分が地面につき、地面の砂をするほど長く伸びることから「砂ずりのフジ」とも呼ばれます。

【問合せ先】

草津市歴史文化財課 〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp